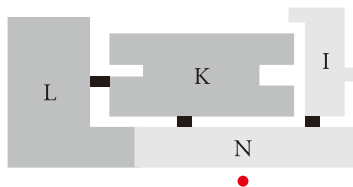


	L	K	N	I
4				
3				
2				
1				



L 棟  
Learning  
黙考する図書館

K 棟  
Knowledge  
知識が眠る図書館

N 棟  
Networking  
対話する図書館

I 棟  
Investigation  
研究・発信する図書館

### 【開館時間・休館日】

#### 授業期間

平日 8:30-22:30  
土・日・祝 10:30-18:00

#### 大学の長期休業期間

平日 9:00-16:45  
土・日・祝 休館

#### その他休館日

年末年始・図書館が定める日

※臨時休館・開館時間の変更等、最新の情報は図書館ウェブサイトでお知らせします

### 千葉大学附属図書館本館

263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33  
Tel 043-290-2258(平日 9:00-17:00) Fax 043-290-2265  
fbc2258@office.chiba-u.jp  
<https://www.LL.chiba-u.jp>

#### アカデミック・リンク・センター

alc-info@chiba-u.jp  
<https://alc.chiba-u.jp>  
Facebook : <https://www.facebook.com/ALC.Chiba.Univ>  
Twitter : @ALC\_Chiba\_Univ

## 千葉大学附属図書館本館利用案内

## Academic Link

「アカデミック・リンク」

それは決して目に見えません。

あなたの知っている言葉で言い換えると、「ひらめき」といえるのかもしれませんが。一見繋がっていないものを繋げることで新しい価値を見出した時、いつもの風景が全く違うものに見えてくる、そんな新しい視点の発見はあなたの世界を大きく変えます。

人はそんな瞬間を求めて学び続けるのか、学び続けるとそんな瞬間に出会えるのか。「ひらめき」は学びの中に隠された喜びであり、あなたの「学びの道しるべ」になります。生涯学び続ける糸口を大学時代に見つけ出して欲しいと、私たちは願っています。

テーマの異なる4つの棟を有する千葉大学附属図書館本館は、静的な図書館と動的な図書館がそれぞれ特徴を活かしたサービスを提供しながら、あなたの学びをサポートします。

L棟

黙考する図書館

K棟

知識が眠る図書館

## L棟・K棟・N棟 知識に出会う

### 紙の知識

千葉大学では全体で百三十万冊を超える図書、二万五千タイトルを超える雑誌を所蔵しています。図書館本館には、図書・雑誌・新聞などさまざまなタイプの紙の資料があります。

L棟とK棟の資料は日本十進分類法（NDC）に基づいて、主題ごとに並べられています。N棟には「本を見せる書架」であるブックツリーがあります。そこには、新着図書・雑誌、千葉大学の出版物、「プレゼン」「留学」などのテーマ別に集められた図書、「授業資料ナビゲータ」掲載

図書が並べられています。学生が企画したテーマで図書を展示するスペースもあります。

### 【図書】

西千葉キャンパスで所蔵する百万冊以上の図書のうち、大学での学習・研究を支えるあらゆる分野の約五十万冊が、L棟・K棟・N棟にあります。貴重書と一部のコレクション資料を除くすべての図書を自由に手に取って読むことができます。

### 【雑誌】

国内外の約二万五千タイトルの雑誌を所蔵しています。和文雑誌バックナンバーと大

学紀要はL棟1階、欧文雑誌バックナンバーはK棟1階、新着雑誌はN棟1階にあります。

### 【新聞】

朝日新聞・科学新聞・Japan Timesなど、一般紙から専門紙まで約二十タイトルの新聞があります。それぞれ一定の期間保存され、当日分だけでなく過去のものも読むことができます。

### 【参考図書】

専門用語や人物についてなど、さまざまなことを調べることができる辞書や事典、白書、統計などがK棟2階にあります。館内でのみ利用できます。

### デジタルの知識

図書館は、紙の資料だけでなく、電子ジャーナル・電子ブック・データベースなどの電子資料も提供しています。学内LANを経由することで、千葉大学が契約している資料にアクセスすることができます。一部の電子資料は、一定の条件のもとで自宅など学外からも利用することができます。

### 【電子ジャーナル】

ScienceやNatureなど、約二万タイトルの電子ジャーナルを利用することができます。電子ジャーナルの中には、紙の資料として

は発行されていないタイトル、紙の資料として刊行されるよりも早く公開される論文もあります。図書館ウェブサイトにある「電子ジャーナルAoz」からアクセスしてください。

### 【電子ブック】

約三万タイトルの電子ブックを利用することができます。多くの電子ブックには、章単位で閲覧できる機能や本文全体をキーワードで検索できる機能があります。複数の電子ブックを横断的に検索することもできます。電子ブックは「千葉大学蔵書検索／OPAC（オパック）」から、アクセスしてください。

### 【論文や統計等のデータベース】

雑誌論文や統計等の各種のデータベースを利用することができます。日本の大学図書館の所蔵図書や論文を検索するためのCinii（サイニイ）、世界中の論文を検索できるWeb of Science、さまざまな辞書・事典を一度に検索できるジャパンレレッジのほか、化学構造から物質を調べられたり、世界中のニュースや法律情報、国内外の各種統計情報などを調べられるような、各専門に特化したデータベースも用意されています。図書館のウェブサイトにも、利用できるデータベースの一覧があります。

## 千葉大学発の知識

千葉大学で生み出された知的生産物（論文、標本・作品写真、教材等）をリポジトリに搭載し、インターネットで公開しています。

## 映像・音声の知識

図書館は、文字で記録されている知識だけでなく、映像資料、音声資料も所蔵しています。総合カウンターで手続きをして、L棟1階視聴覚ブースで視聴してください。なお、視聴覚ブースで視聴できるのは図書館所蔵資料のみです。

## マイクロ資料の知識

明治・大正期の新聞などのマイクロフィルムを所蔵しています。総合カウンターで手続きをして、K棟2階のマイクロ室で利用してください。

## 貴重書・コレクション資料の知識

江戸期の古文書や系統的に集められた図書など、貴重な資料があります。総合カウンターで手続きをして利用してください。

## 分館の知識

千葉大学には、三つの図書館があり、それぞれに次の特徴があります。

- ◎本館（西千葉キャンパス）  
さまざまな分野の資料を所蔵しています。生協ブックセンターが近接し、必要な図書を購入することもできます。
- ◎亥鼻分館（亥鼻キャンパス）  
医学・看護学・薬学関連の資料を中心に所蔵しています。
- ◎松戸分館（松戸キャンパス）  
園芸学・農学関連の資料を中心に所蔵しています。

L 4



700 芸術・スポーツ

800 言語

900 文学

児童書・絵本

COPY カード式  
モノクロ

K 3



200 歴史・地理

300 社会科学

L 3



400 自然科学・医学

500 技術・工学

600 産業

COPY 公費用  
カラー

COPY コイン式  
モノクロ

K 2



参考図書

白書・統計・年鑑・法令全書

新聞（製本・縮刷版）

マイクロ資料

地図

L 2



000 総記

100 哲学・宗教

ブックハウス

K 1



欧文雑誌バックナンバー

L 1



和文雑誌バックナンバー

大学紀要

映像・音声資料

文庫

ラウンジ

COPY コイン式  
モノクロ

## L棟・K棟・N棟

### 知識を活用する

図書館のウェブサイトは知識を探すための窓口です。ウェブサイトを通じて、紙の資料、電子資料を探すことができます。

#### 【千葉大学にある資料を探す】

「千葉大学蔵書検索／OPAC (オパック)」を利用しましょう。OPACは、図書館内の専用端末からだけでなく、図書館ウェブサイトからも利用できます。OPACを通じて貸出中の図書予約、亥鼻分館・松戸分館にある図書を本館に取り寄せることができます。(七ページ「知識を入手する」参照)

### 知識を探す

図書の貸出・返却は、総合カウンターにある「自動貸出返却装置」で行ってください。貸出冊数は、学部生10冊、大学院生15冊、教職員20冊です。貸出期間は3週間です。延長は予約が入っていない場合のみ3回まで可能です。貸出には学生証または職員証が必要です。図書館閉館中の返却は、ブックポストを利用してください。貸出期間を過ぎて返却すると超過した日数分、図書を借りられなくなります。

図書館ウェブサイトにある「MyLibrary (マイライブラリー)」では、図書館で借

#### 【千葉大学にない資料を探す】

CiNii Book (サイニイブックス)などを利用すると、全国の大学が所蔵する資料を探すことができます。千葉県内図書館横断検索では、公共図書館にある資料を探すことができます。千葉大学にない資料は、「知識を入手する」の方法で利用しましょう。

### 知識を閲覧する

館内には、さまざまなタイプの資料閲覧スペース、学習スペースがあります。個人で利用する閲覧席や研究個室、グループで利用するコミュニケーションエリアやグルー

プ学習室などが、各棟の空間設計上の特徴に沿って配置されています。

L棟 静寂閲覧室／最も静かな閲覧席

L棟・K棟／静かな閲覧席

N棟／グループでも利用できる閲覧席・

学習空間

N棟3階、L棟2階には、統合情報センター発行のIDでログインできる教育用端末があります。また、館内には無線LANが整備されています。

### 知識を借りる

図書の貸出・返却は、総合カウンターにあ

る「自動貸出返却装置」で行ってください。

貸出冊数は、学部生10冊、大学院生15冊、教職員20冊です。貸出期間は3週間です。延長は予約が入っていない場合のみ3回まで可能です。貸出には学生証または職員証が必要です。図書館閉館中の返却は、ブックポストを利用してください。貸出期間を過ぎて返却すると超過した日数分、図書を借りられなくなります。

図書館ウェブサイトにある「MyLibrary (マイライブラリー)」では、図書館で借

りている図書の確認や貸出期間の延長、資料の取り寄せの申込などを行うことができます。

### 知識を複写する

館内のコピー機を利用して有料で所蔵資料を複写することができます。モノクロコピー機とカラーコピー機が置かれています。複写できるのは、著作権法で認められた範囲内となります。

一部のコピー機は、USBメモリに保存されたファイルを直接印刷する機能を備えていますので活用してください。

### 知識を入手する

千葉大学で所蔵していない資料については、①他の図書館から借りる、②他の図書館からコピーを取り寄せる、③他の図書館へ行って閲覧することができます。総合カウンターで相談してください。

資料の取り寄せは、図書館ウェブサイトの「MyLibrary (マイライブラリー)」から申し込むことができます。

学習のために必要な資料を図書館が購入し蔵書に加えることを希望する場合は、図書館ウェブサイトにある「学習資料の推薦」をご確認のうえ、お申し込みください。

## 図書館のルール

### 【図書館利用のルール】

- ・入館の際には学生証が必要です。（教職員は職員証が必要です。）
- ・貸出手続きの済んでいない資料は無断で館外へ持ち出さないでください。
- ・閲覧席（L・K・N棟）の利用のルールは原則として下の表の通りです。
- ・館内での飲食は禁止（ただし密閉できるフタ付の飲み物、1階アレンジャー・セッションスペース脇カウンター席、1階中庭、3階テラスでの軽食は可）です。
- ・館内は全館禁煙です。
- ・図書館の資料は大切に扱ってください。借りた図書を紛失・汚損・破損した場合、

弁償していただきます。

- ・その他、職員の指示に従ってください。

### 【非常時について】

非常時には安全を確保し、図書館前方の「かたらいの森」に避難してください。

### 【学外者の利用について】

調査・研究のため千葉大学附属図書館の所蔵する資料の利用を希望される方は、図書館を利用することができます。ただし、利用できる場所・サービスには制限があります。

	L 静寂	L 一般	K	N
タブレット端末	○	○	○	○
キーボード操作の機器 (ノートパソコン・ 電卓・電子辞書など)	×	○	○	○
対話	×	×	×	○

※L棟の1階ラウンジおよび2階コミュニケーションエリアは、N棟と同じルールです。

※携帯電話での通話は、N棟のゲート外、N棟の階段室（ブックツリー内）、L棟2階の通話エリア内、1階中庭、3階テラスで可能です。

N棟  
対話する図書館  
I棟  
研究・発信する図書館





## N棟

### 新しい学びの提案



あなたが見たことも聞いたこともないような図書館のお話をしましょう。ここには「お静かに」という貼り紙はありません。ここは「声を出す」ことを積極的に受け入れる「対話する図書館」だからです。でも、友達と「おしゃべり」をしていいというわけではありません。

大学では受身な姿勢で学ぶことから、自発的に学び、自分なりの考えを持ち、答えを導き出せるようにステップアップすることが求められます。とはいえ、それはどうすればできるようになるのでしょうか？

N棟には、友達と一緒に課題に取り組んだり、大勢で議論をしたり、他人の活動を目の当たりにしたり、誰かにアドバイスを求めたりすることで、一人ではとても辿り着けない「ひらめきの回路」を繋ぎ、あなたの「学びの道しるべ」となる最初の糸口を見つけやすくするしくみが用意されています。

でも、決まった使い方はありません。あなたなりの方法を工夫して考え出してください。N棟は、一人で熟考するだけでない、コミュニケーションの中から繋がりが生まれる能動的な新しい学びを提案します。

図書館のあちこちで、思わず声に出したくなるような、あなただけの「アカデミック・リンク」を探し出してください。

## N棟

### 総合カウンターでできること



N棟1階にある総合カウンターは、図書館でのいろいろな手続きの窓口です。本のことや図書館のことわからないことがあれば、まずはカウンターで聞いてください。

#### 図書を借りる・返す

	冊数	期間
学部学生・研究生・研究科生・専攻生 委託研究生・特別研究学生・別科生	10冊	
大学院生	15冊	3週間
特別聴講学生・科目等履修生	5冊	(3回まで延長可)
教職員・名誉教授・グランドフェロー	20冊	
学外者	2冊	3週間

図書を借りるとき、返すときは、自動貸出返却装置で手続きしてください。予約図書、亥鼻分館・松戸分館、他の図書館から取り寄せた文献のコピーや図書は総合カウンターで受け取ることができます。

#### スペースの利用・機器の貸出の手続き

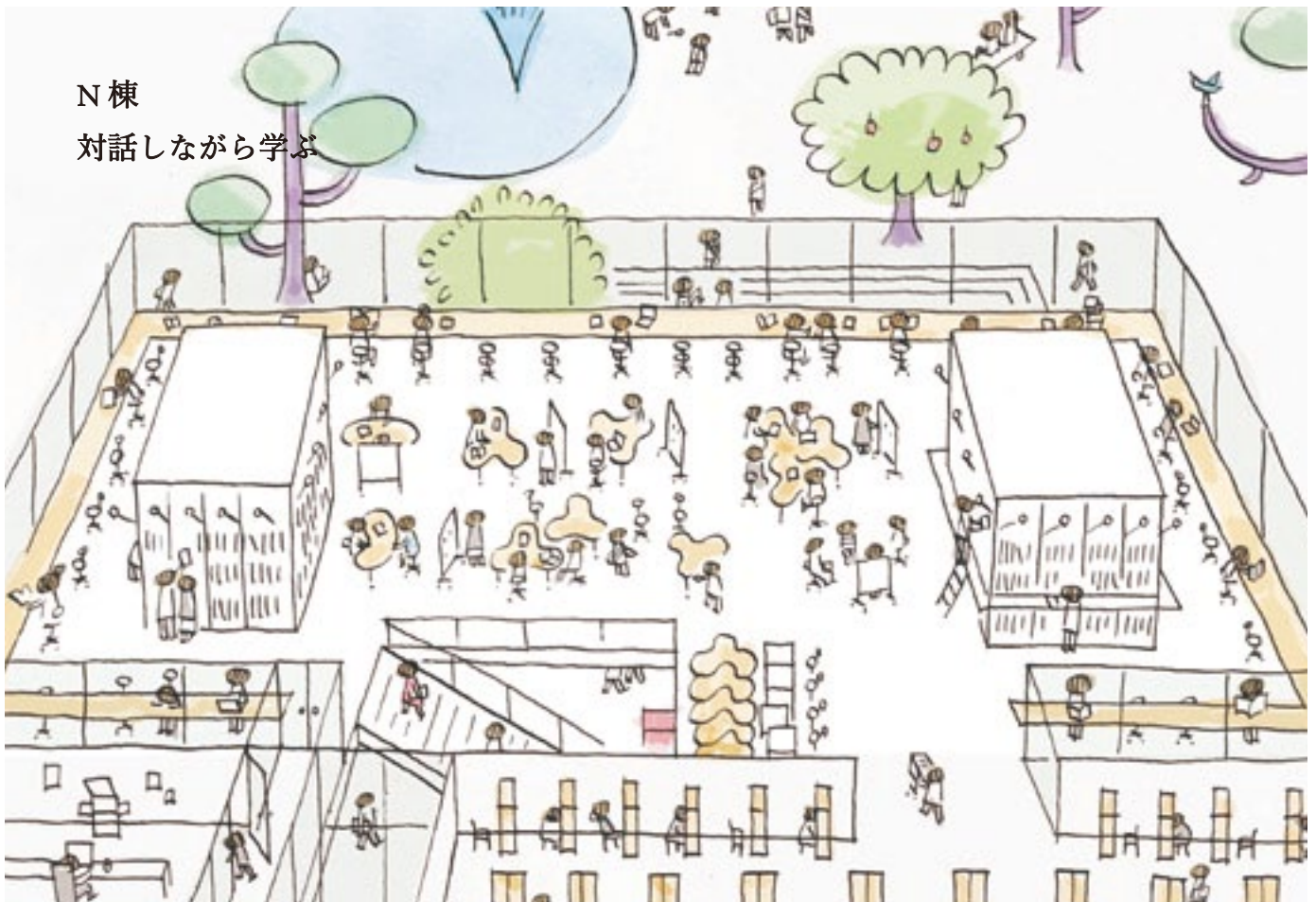
◎映像・音声資料／マイクロ資料／貴重書の利用  
利用手続きをして、それぞれ指定された場所で利用してください。

◎学習スペースの利用手続き  
N棟4階のグループ学習室、研究個室の利用を申し込むことができます。

◎機器の貸出  
ノートパソコン、タブレット端末、電子辞書、プロジェクター等を借りることができます。これらは館内でのみ利用できます。



N棟  
対話しながら学ぶ

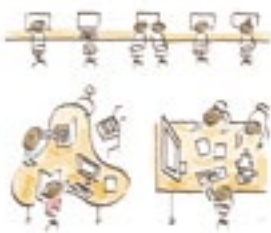


図書館で対話する



2階コミュニケーションエリアには、自由に動かせる机や椅子、ホワイトボードが用意されています。人数やスタイルに合わせ、最適なかたちを工夫してください。

資料を組み合わせる



3階グループワークエリアには、42台の教育用端末が常備されています。さまざまなメディアを組み合わせ、複合的な学習に役立ててください。

集中して対話する



4階グループ学習室は、3名以上のグループで利用できるガラス張りの部屋です。同じ場所には、1人で利用する研究個室もあります。

図書館でプレゼンテーションする



1階のプレゼンテーションスペースは、かたらいの森に面しています。ここではセミナーやイベントが実施され、日々の研究成果を発信することもできます。

## N棟

### 学習を助けるしくみ



ALSA



図書館員



教員

#### 学習支援デスク

N棟2階の学習支援デスクでは、ALSA・図書館員・教員が学生のみなさんの学習をサポートします。

##### ・分野別学習相談

千葉大学の在学生在がALSA (Academic Link Student Assistant, アルサ) として「分野別学習相談」を行います。各分野を専門とする大学院生が、「数学」「化学」「物理」「文系のレポート作成」等の学習相談に対応するものです。「授業や勉強について誰に相談したらいいかわからない...」と感じたときは、気軽にALSAに相談してください。

##### ・レファレンスサービス (調べもの相談)

図書館員が、資料や文献探しのお手伝いをするレファレンスサービスを行います。「文献の探し方がわからない」など、資料や文献について、わからないこと、困ったことがあれば、相談してください。

##### ・オフィスアワー

教員が、学生の皆さんから学業や大学生活全般について相談をうける「オフィスアワー」を行います。学習をはじめとするいろいろな相談を受け付けます。

#### PCサポートデスク

N棟3階のPCサポートデスクでは、ALSAが学生の皆さんのPCやMoodleに関する質問に答えます。

#### 授業資料ナビゲータ (授業資料ナビ)

「授業資料ナビ」とは、普遍教育の教養コア科目・教養展開科目などで、授業を担当する教員と図書館員が、その授業の内容にあわせて共同作成した参考文献リストです。授業資料ナビに掲載された図書は、原則としてN棟2階ブックツリーの授業資料ナビコーナーに「貸出可」と「館内利用」の2冊を用意しています。



・グループ学習室 (4室)

N 4

・研究個室 (8室)

・個人閲覧席

・グループワークエリア

N 3

・PC サポートデスク

・教育用端末ゾーン (42台)

・個人閲覧席

COPY  
コイン式  
カード式  
カラー

・コミュニケーションエリア

N 2

・学習支援デスク

・個人閲覧席

・図書館入口

N 1

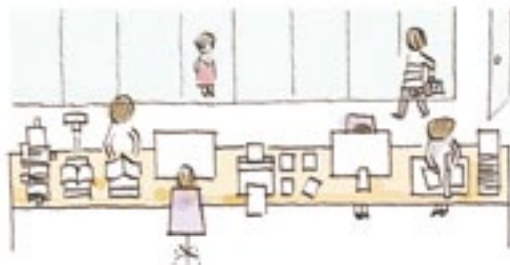
・総合カウンター

・プレゼンテーションスペース

## I 棟 研究・発信する



I棟は、西千葉キャンパスのメインストリート、ケヤキとサクラの並木である弥生通りからよく見える場所にあります。大学にはさまざまなかたちの資料や情報が蓄積されています。それらを創造的に活用した新しい学びのかたちを研究し、それらを提案するためのスペースや設備が、この建物には詰まっています。



自由に動かせる机や椅子と壁一面のホワイトボードを備えた、実験的ワークショップもできる「セミナー室」、講義の様子そのものを資料として記録することができる「コンテンツスタジオ」、録画された動画を編集したり、新しい教材の開発や授業課題を行うための「コンテンツ制作室」などのほか、教員同士がこれからの学びのかたちを議論する「ティーチング・コモンズ」もあります。

知識をつなぎあわせて新しい価値をつくる「アカデミック・リンク」は、千葉大学全体に広がっています。

I棟では、みなさんの学びを革新する「アカデミック・リンク」への挑戦が続けられています。そこは学生・教員・職員という垣根をこえて創造的な学びを考える「アカデミック・リンク・センター」の拠点でもあるのです。